

令和7年度 学校評価書

1. 本年度の重点目標

- イ. 保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実
- ロ. 心豊かに育む絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、リトミックの充実
- ハ. 在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実

2. 自己評価結果及び学校関係者評価

* A (十分に成果があった)、B (成果があった)、C (少しの成果があった)、D (成果がなかった)

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	園としての反省と改善策	評価点	意見
A. 本年度の重点目標・活動	<p>1.保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実</p> <p>2.心豊かに育む絵本の読み聞かせ・ごっこ遊び・リトミックの充実</p> <p>3.在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実</p>	B	<p>今年度は諸事情で親子遠足の実施方法や内容を変更し、現地集合・現地解散という形で初めて実施した。実施方法・内容は変更したが、親子でゆったりと過ごして頂けたので、次年度以降も継続していきたい。年長児の親子レクリエーションは例年通り実施し、楽しんで頂けた。</p> <p>又、年少児の参観会も保護者参加型に変更した点も良かったので、次年度に繋げていきたい</p> <p>絵本の読み聞かせやごっこ遊びは例年通り実施し、成果を感じることができた。リトミックに関しては、今年度も新たな取り組みをしたが、子ども達の反応も良く、成果を感じることができたので、次年度も創意工夫し、実践していきたい</p> <p>未就園児教室の実施や子育て相談、園庭開放等は例年通り実施でき、成果を感じることができたので、次年度も引き続き実施していきたい</p>	A	<p>教育活動に毎年度、前年度の反省等から、見直し、改善等をしっかり行い、次年度に繋げているようなので、これから子ども達も保護者も楽しめるよう継続して欲しいと思う。</p> <p>その反面、園を取り巻く様々な環境の変化が、教育活動を考えていくうえで非常に難しくなってきたというお話もあり、とても大変だと思うが、これからできる限り子ども達サイドに子ども達のための園であって欲しいと願っている</p>
B. 保育の計画性	<p>1.園の理念や教育方針について、園長や教職員と話し合っている</p> <p>2.園の教育課程を理解し、子どもの実態・地域性を考慮し、保育計画を立てている</p> <p>3.保育計画と実践の評価・反省を行い、次に活かせるように心掛けている</p>	A	<p>教職員の構成が昨年度と同じだったので、マンネリ化しないよう年度開始前、日々の職員会議等で話し合いの機会を多々設けたこともあり、その成果を感じることができた。ただ、昨年度と同様、まだ保育計画への理解には個人差がみられるので、一人ひとりの教職員がしっかり共通理解できるよう、今後も伝達・指導を徹底していきたい</p>	A	<p>教職員が園の理念や教育課程をしっかりと理解し、学年毎、又、園全体で理解を深めようとしていると感じるので、次年度も大切にしていって欲しい</p> <p>そういう姿勢が一人ひとりの教職員から感じられることで、園を信頼し、入園にも繋がると思うので、今後も職員会議等でしっかり伝え、共通理解をもって教育にあたるよう、話し合いの場を設け、園の方針や理念についての相互理解を深めていって欲しいと思う</p>
C. 研修と研究	<p>1. 研修会や研究会に意欲的に参加している</p> <p>2. 園内研修を積極的に行っている</p> <p>3.教材・教具について知識を得たり、様々な活用方法を研究している</p>	B	<p>外部研修に関しては、リモート研修を含め、コンスタントに研修会に参加することができたのは一部の教職員だったので、次年度は園全体で参加することができるよう研修計画を見直していきたい。</p> <p>園内研修は日々の計画時から、知識・技能の習得を含め指導し、話し合って準備し、</p>	A	<p>今年度も園内研修には時間を割いて、できる限り技能・知識の習得に努めたとのことだったが、外部研修の受講者に偏りがあったようなので、次年度の計画立案の際には、それぞれの経験年数に応じた外部研修の受講もしっかりと計画に入れ、外部で学んだことを園の教育</p>

	4.保育に必要な知識の獲得や、技能の習得を積極的に行っている		実践へとつなげていけるよう心掛けていけるので、それなりの成果を感じることができたが、個々の教職員で差が見られるので、次年度はより共通理解を深められるよう計画し、実践していきたい		活動に還元できるようにして欲しいと思う。そして、それぞれの教職員が研修を受けるだけでなく、自ら学び、自己研鑽にも努めて欲しいと思う
D. 保育のあり方・子どもへの対応	1.一人ひとりの子どもとの関係がしっかりと築けている 2.一人ひとりの子どもの興味・関心事及び友達関係をしっかりと把握している 3.一人ひとりの子どもの発達についての理解が十分にできている 4.健康と安全についての配慮ができている	B	一昨年の反省の基、今年度をスタートするにあたり、細部まで話し合い、確認作業を徹底したこともあり、一昨年に比べ、子ども一人ひとりととの関係の構築、クラス作り活かされたと感じるが、まだ個々で理解の差、意識の差がでてしまったので、次年度はさらに教師によって極端な違いや差が出ないよう、個人的に具体的な指導を実施し、話し合いの場をできるだけ設けていきたい。又、ここ数年支援が必要な園児も本当に増えてきているので、保護者や他施設との連携も含め、しっかりと対応できるような体制作りを心掛けていきたい	A	教職員一人ひとりが温かくて嬉しい関わりを大切にしてくれているというのを日々とも感じることができているので、安心して子どもを預けることができました。これからも園の理念である、子どもの一人ひとりに寄り添った子ども達の園であって欲しいと思う 又、健康や安全面への理解・配慮も子ども達のことはもとより、清掃等を含め、具体的なお話があり、徹底して行って頂いていることが分かったので、今後も引き続き行って欲しいと思います
E. 保護者への対応	1.園や家庭での子どもの様子について、電話・連絡帳等でしっかりと伝え合っている 2.保護者からの相談・クレーム等を、園長、主任等に報告・相談し、対応している	B	毎年、教職員に一人ひとりに丁寧かつ細やかに対応するよう指導・助言を心掛けているので、多くの場面でしっかりと伝達や対応ができていたが、やはり教職員によって差が見られた面もあるので、次年度はより共通理解をもって臨めるよう指導や助言を徹底していきたい	A	保護者からの質問や相談等、またその日にあった子どもの様子など、細かなことも毎日打ち合わせで共有されているとお聞きしたが、まだ教職員によっては差を感じることもあるということなので、今後、園全体で共通理解をもって対応できるよう、様々な取り組みを頂ければと思う
F. 地域の幼児教育センターとしての役割	1.園に対する様々な問い合わせ等についてきちんと対応している 2.地域の人たちや未就園児に対して、園庭等を開放したり、子育て相談に応じている 3.子どもの教育のために利用したい地域の自然環境や施設、機関について理解している	B	園としては、共通理解を持ち、対応に差が出ないよう、職員会議等でしっかりと話し合いの場を設けている。ただ、まだ個々に対応の差があると感じる面もあるので、今後はそれぞれの教職員がしっかりと対応できるようにしていきたい。又、地域の園としての役割を果たしていきけるよう、在園児だけでなく、未就園児、地域の方に対しても、できる限り開放的な園でありたい 昨年度の反省から、地域への理解は個々に差があったので、昨年度以上に年度開始前や職員会議、園外保育時に、教職員へ伝える機会を設けて活動したので、成果を感じることができた	A	以前から、保護者や他の問い合わせについては、担当の先生が中心に親切丁寧な対応を心掛けて下さっていると感じているので、引き続き大切にしていきたい 未就園児教室への参加率は、様々な理由があると思うが、年々減少しているとお聞きしたので、難しい課題ではあると思うが、次年度以降、何かしらの対策を検討して頂きたいと思う 地域への理解は、様々な場面で伝達したり、学ぶ機会を設け、その成果も感じることができたようなので、さらに教職員の理解が深まるよう創意工夫して頂きたいと思う

3. 本年度の総合的な評価結果

計画していた教育活動等、例年通りほぼ実践することができ、その成果を感じることができた。只、園外活動の面でここ数年、自然環境の変化等もあり、計画通り実践できないこともあったので、次年度は計画を再度見直し、実践していきたい

4. 今後取り組むべき課題

少子化や様々なことが多様化している影響もあり、園児の確保、教職員の確保、教育の質の維持・向上もより難しくなっていると感じているが、当園が創立以来大切にしてきた、子どもサイドに立った子ども達のための園でありたいという理念はこれからも大切に、様々な課題に柔軟に対応していけるよう、次年度も新たな取り組みを模索・実践していきたいと思う